総合患者支援センターニュース

Integrated Support Center for Patients and Self-learning
Okayama University Hospital

〒700-8558
岡山市北区鹿田町２丁目５番１号
岡山大学病院
総合患者支援センター
☎086－223－7151（代表）
☎086－235－7744（直通）

センターの活動に関しては
ホームページ（http://www.cc.okayama-u.ac.jp/）
をご覧下さい。

空に向かって昇る辰（たつ）

総合患者支援センター　副センター長　太田　吉夫

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災という未曾有の災害にみまわれ、さらに原発のメルトダウンもあり、大変な１年でした。地震・津波被害を受けられた地域の復興、原発の安定化は大きな課題ですが、それ以外の点では今年が、おだやかで明るい年になることを願っています。

さて、総合患者支援センターは今年で設立から９年を迎え、センターニュースも今回で22号になります。前回のセンターニュースでもお伝えしましたが、岡山大学病院は昨年４月に新たに槇野病院長の体制となり、総合患者支援センターも体制を大幅に変更致しました。当センターの機能を大幅に強化すべく、病院長が自らセンター長に就任し、副センター長は３人体制となりました。私（太田）が統轄担当を務め、石井先生には従来の業務を踏襲して主に患者様の支援業務を担当して頂き、新たに合地先生に地域連携担当の副センター長に就任頂きました。総合患者支援センターの立ち上げからご尽力頂きました公文前センター長には顧問に就任して頂き、大所高所から引き続きご助言を頂くことになりました。

石井副センター長には、昨年に引き続き、医療・看護・福祉相談・心理相談などの患者相談、がん相談支援センターとしての活動、退院支援を柱に、看護師、ソーシャルワーカー、事務、ボランティアの方々など、様々な職種の方々と協力しながら活動していただいています。また、ボランティア活動の育成・支援、広報活動、専門チーム活動の支援、院内催事など、多くの多岐にわたる業務を担当していただいています。

合地副センター長には、今回新たに地域医療連携を担当して頂くことになりました。国の医療政策の一環として医療機関の機能分化が進められていることはご存じのことと思いますが、そのためには関係する医療機関の間で患者様の診療情報を円滑に連携・利用することが不可欠です。幸い、近年の情報技術の進歩により、セキュリティーに配慮した上で大学病院内のカルテを遠隔の病院や診療所から見ることができるシステムが運用できるようになってきました。

病院の中はもちろん、外部にも広く目を向けたトータルな患者支援が行えるように、当センターが機能することを目指しています。

新たな体制の総合患者支援センターが大きく飛躍できるよう、職員一同が力を合わせ頑張りたいと思っています。皆様方の暖かいご支援をお願い致します。

～がんサロン岡大が２周年を迎えました～

「がんサロン２周年にあたって」

腫瘍センター　田端　雅弘

平成 18 年 10 月に岡山大学病院腫瘍センターが開設された時の課題の一つが「がんサロン」でした。がん診療連携拠点病院にはがん患者会、家族会、あるいはがんサロンのサポートが重要なミッションの一つとされていましたが、当時岡山大学病院には「がんサロン」が存在しませんでした。それまでがん種ごと、病院ごとの「患者会」が熱心に活動をされていることはよく知られていましたが、がん種によらず、がん患者さんとその家族が自主的に運営する「サロン」があって、お互いの療養体験を語り合ったり、がん医療の情報交換などをしたりする場のことはあまり周知されていませんでした。行政などへの要望の提出なども行う「患者会」に比べて、がんサロンは敷居が低く、だれでも気軽に立ち寄れるがん患者さんと家族の“たまり場”のようなもので、なんでも島根県では全国に先駆けて病院や地域に多数立ち上げられていてがん患者さんと家族療養の質の向上にずいぶんと貢献しているとのことでした。これは岡山大学病院でも是非始めたいと、当時の総合支援センター岡田宏基副センター長にお願いして（岡田先生が香川で立ち上げられていた）「香川がん患者おしゃべり会」に総合支援センターのスタッフと見学に伺いました。そこでは本当に「おしゃべり」を介して医療者と患者の関係を超えた人としての心の絆が深まり、癒されている場面を拝見し感動したこと、ついでに讃岐うどんにも感激したものでした。そんなあれやこれやを参考にして岡田先生以下総合支援センターのスタッフの熱意で平成 22 年 1 月に第 1 回目のがんサロンを暗中模索で開催できました。がん患者さんとその家族にご参加をいただき、暗中模索の状態で続けてまいりましたが、途中岡田先生から引き継がれた石井副センター長のもと、さらに発展を続け、本日２周年目を迎えることができました。今後も「癒しの場」を応援していきたいと思います。どうぞお気軽にお立ち寄りくださり、おしゃべりを楽しまれてください。

～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～「がんサロン岡大の活動」～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～

がんサロン岡大は、がんの治療や療養上の様々な相談を受ける中で、がん患者さんやご家族が自由に病気のことや生活上の不安等を語り合える場があれば、と始めたもので、今年で２周年になります。患者さんからも、「院内で患者会を開いてほしい」というご要望もあり、2010 年 1 月 15 日に第一回目のがん患者サロンを開催しました。以後、定例会は奇数月第３金曜日 14 時～16 時で開催しており、当院に通院・入院されている患者さんやご家族の方に参加していただいています。お互いの発言を批判しないこと、プライバシーを守ることが、この会のルールです。自分の気持ちを言葉にしたり語りあったり、がんサロンが、患者さん方の交流の場になっていければと思っています。

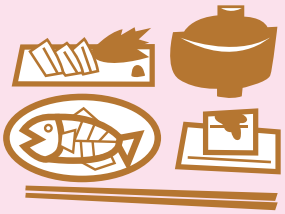
昨年からは、参加されている患者さんが中心となって、偶数月の第３金曜日に茶話会を開くようになりました。また、昨年の４月にはお花見に行き、活動が広がっています。昨年のお花見では、病院近くの西川沿いの桜並木を散策したあと、レストランで美味しい和食を楽しみました。散策中は、おしゃべりしたり写真をとったりして楽しい時間を過ごすことができました。

また、がんサロンの参加者からの要望で、偶数月の第２木曜日には、「がんと上手につきあうためのミニ講座」として、専門スタッフによりがんに関するミニ講座も行っています。

当センターの掲示板に、「がんサロン岡大」と「がんと上手につきあうためのミニ講座」の開催のお知らせを掲載していますので、関心をお持ちの方はお気軽にご参加ください。

（報告：総合患者支援センター　広森　由紀）

院内には、食べる事に関して様々な部署・専門職が関わっています。
今回は、その中の臨床栄養部と歯科衛生室のとりくみについてご紹介します。



「食事療法を支える臨床栄養部」

管理栄養士　　長谷川　祐子

臨床栄養部は患者さんの栄養管理と給食管理の両方の仕事をしています。患者さんそれぞれの状態にあった食事を大量調理マニュアル（HACCP）に則り衛生的で安全に提供することが第一の使命と考えています。また美味しさも大切なポイントで調理担当者と相談しながら鋭意努力しています。さらに患者さんの食事療法に関する相談や支援を行っています。スタッフは部長が新医療研究開発センター四方教授、消化管外科白川医師と坂本栄養管理室長の２名が副部長、管理栄養士５名（常勤２名、特別契約職員３名）となっています。岡山大学病院はさまざまな診療科がありますが、全ての患者さんの栄養管理に関わっています。チーム医療においても糖尿病、慢性腎臓病（CKD）、栄養サポートチーム（NST）、周術期管理センター（PERIO）、褥創クリニックチーム、緩和ケアチーム、摂食嚥下等、積極的に参加しています。また栄養相談（指導）では自宅でも継続出来る食事療法を入院・外来患者対象に、ご家族と一緒に考えています。糖尿病、脂質異常症、腎症などの慢性疾患は当院を退院された後も栄養管理を継続する必要があり、地域病院との連携（情報交換）にも積極的に取り組もうとしています。長期欠食中の患者さんが経口摂取を開始すると驚くほど回復されることがあります。さまざまなステージで『よりよい栄養を摂る』ことを提案していきます。食事や栄養でお困りのことがありましたら、主治医や看護師を通して臨床栄養部へご相談下さい。

「噛むことと全身の関わりについて」

歯科衛生士　　三浦　留美

当院の歯科衛生士は、医科との連携を持ち、「糖尿病患者さんへのブラッシング指導」「妊産婦を対象にした母親教室」、「小児病棟での歯磨き教室」などを行っております。一生涯、自分の歯でおいしく食事を摂り、健康に過ごすためにも、丁寧に歯磨きをする、しっかり噛む、ということを習慣づけて欲しいと願っております。

栄養の入り口であるお口には、いろいろな機能があります。中でも「噛む」ことは全身にいろいろな効用をもたらすと言われています。

① 消化を助け肥満防止にも。
食物をこまかく噛み砕くことにより、唾液の分泌がよくなり、消化・吸収が向上し、満腹感を感じさせるので、食事の量が少なくなります。

② 成長促進
噛むことで顎や頭部の骨・筋肉などの組織が強くなり、顎・顔形の発育を促進します。

③ 老化予防
噛むことで、脳への血流量が増え、また口周囲の筋肉が脳神経を活発化させ、老化防止に効果があると言われています。

④ 味覚の発達
よく噛むことで、舌の味細胞を刺激、発達させ、脳の味覚中枢を刺激して食べ物を美味しく味わえます。

⑤ 予防効果
よく噛むことにより、唾液の分泌量が増え自浄作用で歯は汚れにくくなり、虫歯や歯周病の予防にもつながります。

しかし、しっかり「噛む」には日頃の、お口の手入れが重要になってきます。
自分のお口にあったブラッシング方法を学ぶ、虫歯や歯周病の有無を調べ、かみ合わせをチェックしてもらう等、定期的な歯科受診は歯科疾患の予防にもつながります。
定期的な検診を是非おすすめします。

（参考資料　日本歯磨工業会「歯を守る」）

NICU同窓会は5周年を迎えました

岡山大学大学院保健学研究科　　大井　伸子

2007年より、岡山大学病院のNICUを退院したお子さん（出生時体重1,500g未満）とご家族の方々の相互の交流や親睦を図ることを目的に、NICU同窓会を開催しています。今年度、NICU同窓会は５年目を迎えました。NICUとは、一般的には「新生児集中治療管理室」、「新生集中ケア室」とよばれています。NICU同窓会を始めた当時は、吉永治美医師（小児神経科）、増本由美医師（産科）、丸山秀彦医師（小児科）、東病棟４階の松井たみこ前看護師長、藤岡まゆみ副看護師長と私が実行委員となり、会の企画を進めていきました。その後メンバーに移動などがあり、吉本順子医師（小児科）、難波道子看護師長（東病棟４階）が加わり、年間計画を立てながら毎年行っています。

現在では、対象となるお子さんの人数が毎年増えていくことから、２つのグループに分けて（０歳～１歳児、２歳以上）年２回行い、プログラムの内容も年齢に応じた工夫をしています。今年度のNICU 同窓会は、『０歳～１歳児』の会を2011年10月30日（日）、『２歳以上』の会は2011年12月18日（日）に、入院棟11階カンファレンスルームCで行いました。特に２歳以上の会には、この会を楽しみに毎年参加してくださるご家族がいらっしゃいます。今回は５周年ということかどうかはわかりませんが、12月18日（日）には16家族計49人も出席してくださいました。お子さんたちの中には小学生になった方も数人おり、月日の経つのを感じました。当初は、NICU退院後のお子さんの成長・発達を把握できること、ご家族の抱えている悩みを聞き支援を行っていくこともこの会の目的として考えていましたが、年に１回お子さん達とご家族にお会いできることが私たちの楽しみであり、また元気の素にもなっています。

NICU 同窓会には、保健学科の看護学専攻の学生や川崎医療技術短期大学のベリーキッズのみなさんが中心となり、毎回子どもたちが喜ぶプログラムの内容を企画して、能力を大いに発揮してくれています。今年は初めて、会に出席されたお母さんがプログラムに参加してくださいました。また、今回で２回目になりますが、くらしき作陽大学の橋本正巳先生に、相談員としてご協力いただいています。今後も、NICU同窓会を周産母子センターのスタッフだけでなく、総合患者支援センターや保健学研究科、院内のさまざまな部門の専門職種の方たち、地域の専門職の方々、参加してくださるご家族の方々と少しずつ輪を広げていきながら、協働して開催していければと考えています。

ボランティア感謝状贈呈式・親睦会

平成23年12月８日（木）に、ボランティア感謝状贈呈式・親睦会を行ないました。

当院には、病院ボランティアの組織があり、外来案内・患者図書室・小児科での活動・園芸のグループで活動しています。毎年、その活動時間に応じて、ボランティアの方に感謝状を贈呈させて頂いてます。

その後、支援センタースタッフも含めて、親睦会を行ないました。軽食を囲んでお話しを楽しみ、交流を深めました。ボランティアの方の篠笛の演奏もあり、和やかな時間となりました。

1000時間以上
亀山尚子さん
野崎博子さん
大麻卓子さん
友重安子さん

500時間以上
犬飼光子さん
西山則子さん
村口篤子さん
岩城素子さん
石井美代子さん
仲倉俊恵さん

200時間以上
加本好江さん
石井ちはるさん
藤田敏子さん
田淵磊一さん